

棒温度計の扱い方

関連単元

5 かげのつき方と太陽の光

1. 春の自然(4年)

○夏の自然

○秋の自然

○冬の自然

7 ものの温度と体積(4年)

8 もののあたため方(4年)

6 もののとけ方(5年)

9 発電と電気の利用(6年)

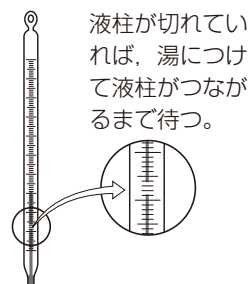
事故防止のために

棒温度計は、ガラス製で30cmくらいの程よい長さなので、児童は安易に棒のように使いがちである。使い方を間違えると事故につながる。また、固いものに当たると容易に割れてしまうので、気をつけて使うようにする。

1

児童へ渡す前の点検

- ①液だめが割れていないか。
 - ②液柱がとぎれていないか。
 - ③目盛りが消えていないか。
- などを確かめる。
- 児童へ渡すときは、ケースに入れて渡す。



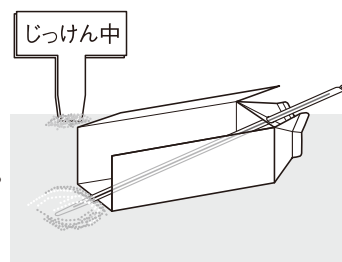
2

使うときの注意点

- 固いものにぶつけない。
⇒ガラス製品なので、固いものに当てると割れて、けがの原因ともなる。
- 棒温度計で土を掘らない。
⇒棒温度計は棒状であるから、つい土を掘る道具として使いがちである。これも、割れてけがをする原因になる。
- 落ちやすい場所に置かない。
⇒棒温度計を机の上などに寝かせておいておくと、転がって床に落ちて割れ、ガラスの破片がけがの原因になる。
- ポケットに入れて歩いたり、座ったりしない。
⇒ポケットに入れて持ち歩いているときに転ぶと、棒温度計が割れてけがをするおそれがある。また、座るときも折れてけがをするおそれがある。
- 攪拌棒の代わりに使わない。
⇒折れるとガラスの破片でけがをするおそれがある。
- 持ち運びのときや使わないときは、ケースに入れておく。
⇒割れてもガラスの破片が飛び散らないので安全である。
- 地温を測定する実験中、踏まれないように立札などの目印をする。
⇒棒温度計が踏まれて割れると、実験がだめになるだけでなく、踏んだ人がけがをするおそれもある。



ケースの先端に綿をつめる。



3

実験終了後の点検

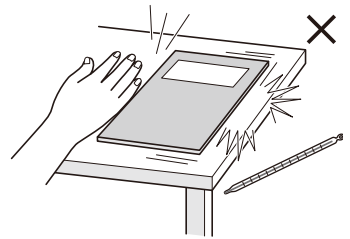
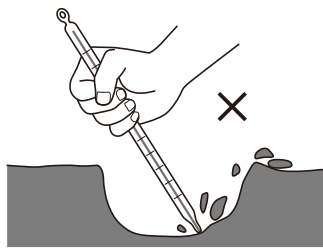
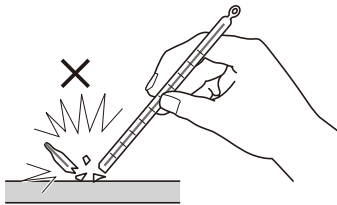
- ひび割れや欠損がないかをチェックして片付ける。
⇒ひび割れや欠損があるものは廃棄処分にする。
- 貸し出したときの数が返っているかを確認する。

ぼう温度計のあつかい方

ぼう温度計は、えきだめにふれている水や空気などのあたたかさはかる道具である。ガラスでできているのでわれるとけがをしたりすることがあるので、気をつけて使う。

① 使うときに注意すること

- かたいものにぶつけない。
- 土をほらない。
- 落ちやすところにおかない。



- い動するときは、ぼう温度計のケースは立てて持つ。
- えきをかきまぜるのに使わない。
- 持ち運ぶときや使わないときは、ケースに入れておく。

ぼう温度計は
立てて持つ。

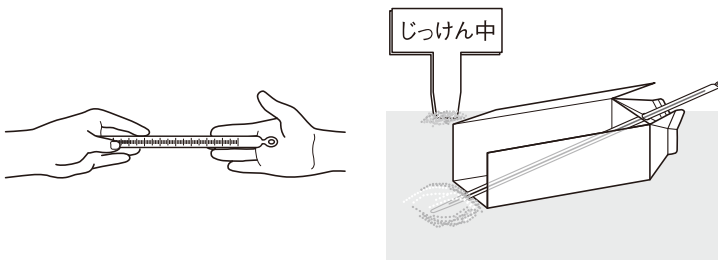
ケースから
温度計が
とび出して、
われる



ぼう温度計は、
こわれやすいの
で、かきまぜる
のに使わない。



- 友だちにわたすときは、手わたしをする。
- 土の温度をはかるときは、ふまれないように、目じるしをする。



⇒ ぼう温度計をわたしたときは、すぐに先生にほうこくをする。また、けがをしたときは、すぐに手当てをしてもらう。